



緑豊かな亜熱帯の森



マテリアの滝



アマミノクロウサギ



オオトラツクミ

(写真：鹿児島県奄美野生物保護センター)



オットンガエル



ハブ



リュウキュウアサギマダラ



アマミセイシカ



山道からの風景

生物多様性の森

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の4地域は、その生物多様性が評価され2021年7月にユネスコの世界自然遺産に登録されました。これらの島々は日本列島の南端部に位置する琉球列島の一部。数百万年前の地殻変動によりユーラシア大陸と分かれて島々になり外部の影響を受けにくかったため、ここにしか生息しない固有種が多く、それらの種の割合も高くなりました。現在、奄美大島と徳之島に生息するアマミノクロウサギは、1属1種で近縁種がないといわれています。さらに奄美大島は生物生息域の北限と南限の境目であるため多種多様な生物が共存し、国土面積の0.2%に満たないですが、国内全体の生物種の約13%が確認されています。年間降水量3,000mm近く、年平均温度が20度を越し、温暖多湿な亜熱帯性気候です。

湯湾岳

奄美群島最高峰の山で、標高694メートル。奄美群島国立公園のもっとも厳しく行為が規制される特別保護地区に指定されると同時に、世界自然遺産エリアです。また、アマミコとシニレクという二神がこの山に降り立ち奄美大島を創造したという神話が残る神聖な場所でもあります。そのため昔から周辺の人々から信仰され、山頂付近の広場には祠が建てられています。大和村側はボードウォークが整備され、入り口駐車場から徒歩15分で祠に到着します。宇検村の湯湾岳展望公園からは、未舗装の登山道に沿って60分ほど。大和村と宇検村の登山道の入り口は、離れた場所にあるので歩いてきた道に戻ることをおすすめします。大和村側の湯湾岳周辺にはトイレがなく、一番近いトイレは奄美フォレストポリスです。

森の守り神ハブ

奄美大島には陸生のヘビが8種生息し、そのうち4種が有毒です。特にハブは気性が激しく、大きいもので全長2mにもなり、夜行性で木登りも得意。生まれてすぐの小さいハブでも猛毒を持ち、肉食獣や大型猛禽類がない奄美大島では生態系の頂点に立っています。昔から「魔物」や「山の神の使い」といわれ恐れられてきたため、人もむやみに山に入らず、森が開発されずに残っているとの一説も。集落内でもハブには気をつけましょう。

⚠️ ハブに咬まれないために

- ・昼間でも草むらに近寄らないようにする
 - ・草が生えているところを歩くときは棒などで前方を叩きハブがいないか確認する
 - ・ハブが活動する暗い時間は必ずライトで足元を照らしながら歩く
 - ・気温18～27度で活発になる、5～10月頃は特に気を付ける
 - ・見つけたら1.5m以上離れ、迂回して逃げる。集落内では近くの人に知らせる
- もし咬まれたらすぐに救急車(119)を呼ぶ。応急処置としてポイズンリムーバーで毒を吸い出したり、傷口より心臓に近いところをタオルなどで縛ったりする

👕 服装 四季を通じて安全に楽しむために服装に気をつけましょう。

- ・肌を露出していると虫に刺されたり、枝や岩で怪我をしたりすることがあります。
- ・天候が変わりやすく雨が多いため雨具の準備も必要。運動靴など滑らない履物がおすすめです。
- ・奄美の日差しは強く、火傷症状になることもあるので日差し対策を十分に行ってください。

問合せ 大和村役場 企画観光課

TEL 0997-57-2117 / Email kikaku@vill.yamato.lg.jp

警察 110 / 救急車 119 / 消防車 119 / 海難救助 118

大和村の緊急
避難所一覧に
ついてはこちら



湯湾岳の利用ルール

貴重な自然環境の保全のためのルール

1. 動植物をとらない、持ち帰らない

動物の捕獲や植物の採取は行わないでください。湯湾岳周辺は、奄美群島国立公園の特別保護地区に指定されており、原則として許可なく動植物の捕獲・採取等はできません。

2. 外来種等を持ち込まない、拡散しない

衣類に付着した種子の確認や、靴底の泥を十分に落とすなど外部から種子を持ち込まないように配慮をお願いします。在来種であっても人為的な持ち込みは行わないでください。

3. 植物を踏まない、樹木の枝を折らない・切らない

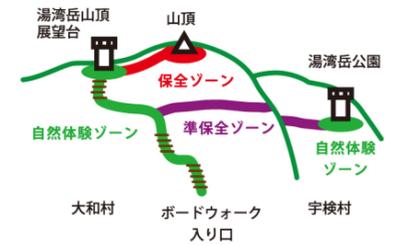
歩道沿いにも希少な植物が生育しています。歩道や広場においては、周辺の植物を踏まないように注意してください。また、樹木の伐採や剪定は行わないでください。

4. 歩道や広場以外の場所に立ち入らない

自然環境の保全のため、道や広場を外れて脇道や林内に立ち入らないでください。

5. 山頂の保全ゾーンには立ち入らない

山頂の保全ゾーンは、特に希少な植物が生育し、自然環境の保全上、最大限の配慮が求められます。また、歩道のぬかるみが多く見られることから、利用による拡幅が懸念されています。希少な植物等を厳正に保全するため、祠広場より奥の山頂の保全ゾーンには利用のために立ち入らないようにお願いします。



持続可能な利用の促進のためのルール



1. 少人数利用等の推進

準保全ゾーンの宇検村登山口からの登山道は、湯湾岳の貴重な自然環境に対する利用のインパクトの軽減化や森の静寂性、厳かな雰囲気損なうことがないように、利用は1グループ8人程度以下を目標水準とした少人数による利用を心掛けてください。

2. ガイド帯同の推奨

準保全ゾーンでは、自然体験の質の向上や、自然環境への負荷を低減した適正な利用の推進のため、ガイド帯同を推奨します。ガイドについては奄美大島エコツアーガイド連絡協議会、大和村集落まるごと体験協議会(0997-57-2828)、宇検村ガイド協会(090-1161-7521)まで。

3. 地元から神聖視される場所としての配慮

湯湾岳は奄美大島の始祖アマミコ・シニレク降臨の伝説や、與湾大親の墓所の伝承が残り、地域の信仰の対象となっています。祠広場には、こうした石碑や祠が祭られていることから、厳かな雰囲気を損なうことのないような利用をお願いします。

バスについて

湯湾岳、奄美フォレストポリスにはバスが通りません。最寄りの大棚バス停から奄美フォレストポリスまでは徒歩約2時間(8.7km)かかるため、レンタカーかガイドと一緒に訪問をおすすめします。集落間の移動は、2種類の交通機関があります。

【大和村直行バス】奄美市名瀬と大和村を往復しているバス。平日5本、土日祝3本。

【きびきび号】大和村の集落を巡回しているコミュニティバス。運行は月、水、金で1日2往復。

バスについての
詳細はこちら

